

# ユーザの好みに合わせたテレビ番組視聴支援システムの提案

北川 真衣<sup>†</sup> 植竹 朋文<sup>†</sup>  
 専修大学 経営学部<sup>†</sup>

## 【研究動機】

ケーブルテレビの普及に伴い、ユーザは多種多様な番組の中から自分の好みに合った番組を見ることが可能になった。しかしその反面、番組数が多すぎてその全容が把握できず、見たい番組を見逃すという問題も発生してきている。

## 【研究対象・目的】

テレビ視聴者やテレビ番組表を利用する人を対象とし、ユーザ好みの番組を推奨することで、見逃しや見忘れなくスムーズに番組視聴できることを目的とする。なおここでは、感動や充実感の高いリアルタイムでの視聴にこだわり研究を進めた。

## 【現状分析】

まず、見たいと思う好みの番組の特徴を明らかにするために、テレビ視聴行動を2か月間分析(図1)した結果、以下の点が明らかになった。

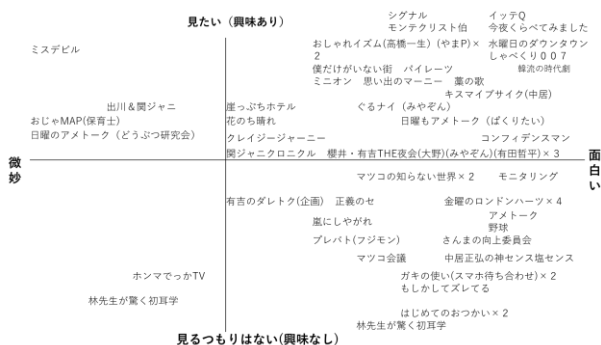


図1 テレビ番組の位置づけ

- いつも見ている番組がある
- 既知の番組は、ジャンルと出演者、内容が重要
- 未知の番組は、ジャンルと出演者、内容と合わせて話題性の高さ(視聴率)も重要
- 出演者を重視する傾向がある

次に、上記に見たい番組の見忘れや見逃しに注目し、既存のテレビ番組視聴支援システムの分析を行った。

表1 既存のシステム分析

	見たい番組抽出		見忘れ/見逃し防止	
	検索機能	ランキング	通知機能	My番組表
①	○	×	○	×
②	○	×	×	○
③	○	×	○	×
④	○	×	×	×
⑤	×	×	○	○
⑥	○	×	○	×

- ① 超分かりやすいテレビ番組表 ② Gガイドテレビ番組表  
 ③ TV番組表 タレント名で検索 & 自動アラーム通知  
 ④ テレBing ⑤ Video & TV Sideview ⑥ 追っかけスター

分析の結果(表2)、個人の嗜好に合わせて番組を推薦してくれるシステムはないことが明らかになった。また、それらの番組の視聴スケジュールを作成する機能もないことが明らかになった。

## ○ 現状分析のまとめ

- 定期的に見ている番組がある
- 見たい番組は、ジャンル・内容・出演者 3つの要素が重要である。
- テレビ番組の見忘れや見逃しを防止する既存システムは存在しない。

## 【システム提案】

ユーザの好みに合わせたお薦め番組を表示し、テレビ視聴の際の見逃しをなくすシステムを提案する。

## 【システム概要】

システム概要を図2に示す。

ユーザが番組・出演者・ジャンル・キーワードを登録し、番組表データベースからおすすめ番組抽出する。抽出された番組は、Googleカレンダーを用いて可視化させるタイムテーブル機能によって、ユーザに届けられる。

Proposal of television program viewing support system according to user's preference

<sup>†</sup>Mai Kitagawa, Tomofumi Uetake, School of Business Administration, Senshu University

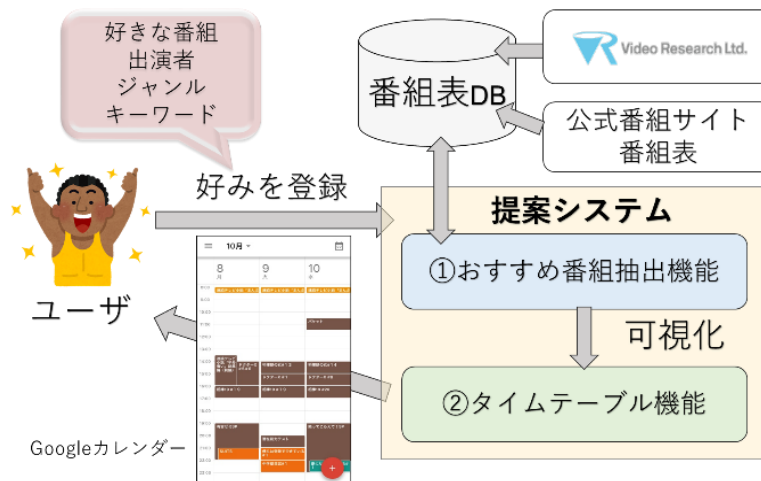


図2 システム概要

① おすすめ番組抽出機能

ユーザの登録した情報（好きな番組・好きな芸能人・好きなジャンル・好きなキーワード）と過去の番組視聴率（表2）をもとに番組のお薦め度を以下の式に従い算出し、得点順に提示する。

〈お薦め度の算出方法〉

お薦め度

$$= \text{出演者 P} + \text{ジャンル P} + \text{キーワード P} + \text{視聴率 P}$$

表2 得点表（現状分析をもとに策定した得点表）

出演者 P	ジャンル P	キーワード P	視聴率 P
MC・主演: 3P 脇役: 2P 端役: 1P ゲスト: 3P	見る: 2P たまに見る: 1P 見ない: 0P	キーワード 1つあたり: 1P	トップ 10: 1P

② タイムテーブル機能

抽出した番組を点数別のファイルに分け、Google カレンダーを用いて可視化する（図3）。

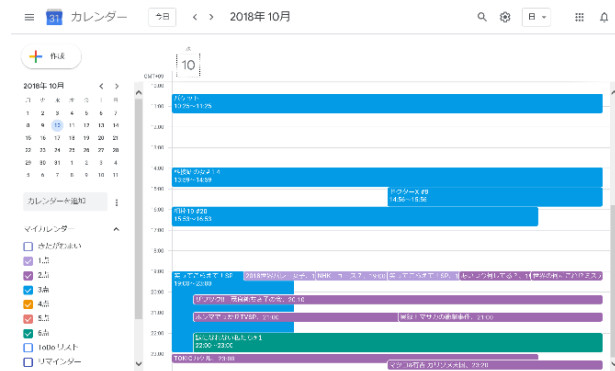


図3 タイムテーブル機能

【効果検証】

本システムの有効性を検証するためにプロトタイプシステムを作成し、テレビ視聴者男女 12 人(10 代~50 代)に利用してもらい、効果検証を行った。

表3 効果検証の結果

抽出された番組の妥当性(含有率)	77%
本システムの有効性(5段階評価)	3.4
本システムの見やすさ(5段階評価)	4.4

検証の結果、ユーザの好みの番組が抽出出来ていること証明され、本システムの有効性が立証された。しかし、番組選択する際に重要視する要素は人によって異なることも明らかになった。

【結論】

本システムを用いることで、見逃しや見忘れを防止し、ユーザの好みに合うテレビ番組がスムーズに視聴できることが確認できた。

【今後の課題】

今後は、ユーザの様々な嗜好に対応するために、各要素の重みづけを検討していく予定である。

【参考文献】

[1] テレビ番組表の記録, <http://timetable.yanbe.net/>  
 [2] テレビ番組の関するネットリサーチ, <http://www.dims.ne.jp/timelyresearch/2012/120801/>  
 [3] よく見ているテレビ番組のジャンルは?, ITmedia ビジネス ONLINE, <http://bizmakoto.jp/makoto/articles/1109/13/news037.html>  
 [4] ビデオリサーチ, <https://www.videor.co.jp/>